

薬史学会通信

No. 1 1985年10月

東京都千代田区神田駿河台
日本大学理工学部薬学科内
日本薬史学会事務所

発刊のことば

薬史学の研究課題は、人間の生命・健康に深い関わりのある物質——クスリ——をめぐる多彩（単に薬学・薬業・医薬品に関する史実の研究にとどまらず）なものであり、したがって史的考察を行う場合、まず歴史に対する基礎的理解を身につける必要があることは言うまでもありません。

しかも史学の目ざす処は、単に過去において生滅した事象の由来する処に併せて、その史的経過と現在ならびに将来への影響にまで及んでいます。

わが薬史学会は、日本薬学会の年会における“薬史学部会”と、機関誌“薬史学雑誌”とを研究発表の場としていますが、漸増する会員相互の交流を密にし、研究意欲を活発にするために、今回この通信紙の刊行を企画し、実施することになりました。

会員の研究活動に資する情報の交換、資・史料の紹介などにも活用して頂ければ幸いです。

日本薬史学会々長代行

吉井 千代田

発刊のねらいと内容

日本では、欧米と異って科学史および科学史研究に対する関心が、一般に薄く、そのことは真の独創性欠如に関係している、と指摘する人もいます。（尾佐竹侑編：大学と研究社会・日経新書、1976、125ページ）

わが薬学においても同じことが言えるようで、薬史学研究の発展は現代的課題のひとつだと思います。

薬史学が老人の回顧趣味を満足させるものから、若者の発展のための糧へと変化させる

には如何したらよいか？成すべき事は多々あると思いますが、ひとつの方法として気楽に読める機関「紙」の発刊を開始したわけであります。

日本薬史学会が機関紙を出すのは、今回が初めてではありません。1972（昭和47）年の頃、故三浦三郎先生が主となって郵便葉書による「薬史学会レポート」が出されました。当時、大いに期待が寄せられましたけれど、残念ながら三浦先生は間もなく御病気となり事業は伸展しませんでした。

今回の「薬史学会通信」（次ページ下段へ）

薬史学部会シンポジウム 一予告一

昭和61年4月、千葉市において行われる日本薬学会総会においては、つぎのようなシンポジウムを企画しております。ご期待下さい。

清水藤太郎博士生誕百周年記念シンポジウム

(1)シンポジスト、演題：

- 吉井 千代田 : 清水先生の人物像と業績
- 堀岡 正義 : 調剤学と清水先生
- 江本 龍雄 : 日本薬局方と清水先生
- 木村 雄四郎 : 漢方・漢薬と清水先生
- 青木 允夫 : くすり博物館と清水先生

(2)討論（座長 川瀬 清）

なお、業績集パンフレットを会場で配布

（前ページ下段より）は、三浦三郎先生の御遺志を継ぎ、さらに発展させようというものであります。

内容について計画していることの一部を述べますと；

「講座」……日本の薬史学の世界には科学としての歴史学に立脚した通史を持っていないので、初学者は、いわば指導標なしに薬史学探索の旅に出なければならぬ状況であります。

そこで、基本的にこれだけは、というミニマム・エッセンシャルな知識を紹介します。多くは読み切りで、時には続き物です。

「会員消息」……薬史学会々員には、多くの篤学の士が居られます。それらの方々の横顔や御意見などを順次掲載して、会員交流の実を挙げたいと思っております。

「学会消息、交流」……私たちの学習や研究は、仲間内だけで通用するものであってはなりません。科学史、技術史、医学・医療

史の分野で今なに行われているか、国内・国外を問わず、その時点での動向を知る必要があります。そこで紙面の許す限り、そのようなニュースを盛込みたいと考えています。

「案内」……近年、いろいろな博物館・資料館が各地で建設されるようになりました。また、いわゆる薬学陣でない方々によって貴重な研究論文や図書が発表されています。そのような情報も入れるつもりです。

「資料」……それから、これは紙数の関係から全文は無理だと思いますが、参考になる資料、例えば、各大学での薬史学・薬学概論などのカリキュラムや、薬の歴史に関係のある統計数値・公文書なども載せられればと思います。

以上、思う所は次々と広がりますが、限られた資金、時間、力量のもとで、一挙に多くは不可能です。歩一歩、会員諸氏の御意見を伺いながら進んで行きたい所存であります。

（編集担当者、川瀬）

薬史学雑誌の編集について

薬史学雑誌は1966（昭和41）年創刊以来、会員による学術発表の機関誌として一定の役割を果たして来ました。ただ本会の発展段階を反映するかのようになり、投稿原稿が多くなかったため、編集委員会としては投稿原稿の増加を促進する目的もあって、特に主体的編集方針を打出さず、投稿原稿は総べてそのまま掲載することにして参りました。このため第20巻第1号（30周年記念号）でお知らせ致しましたように、現在までに多数の原報・総説などを掲載することができました。

しかしその反面で科学としての薬史学の水準向上に資さない傾向の内容も出て参りました。近時この点に関し、当誌の編集方針を改め、質の高い学術誌の刊行を期待するとのご意見が、会の内外から強く出されるに至りました。

このような状況をふまえて編集委員会は、慎重な反省を行ないました。そして今後、当誌の編集に際しては、主体的な立場を確立してその任に当り、質の高い学術雑誌への向上をはかることが必要であり、こうすることが薬史学雑誌投稿規定の精神に沿うものであるとの見解に達しました。この編集方針は、在京幹事会（1985年6月29日）で承認され、次号の編集から採用されることになりました。

ここに、本誌の編集に対しまして、ご忠告・ご助言を寄せられた方々に厚く感謝いたします。

1985年10月

薬史学雑誌・編集委員会

なお、この機会に機関「紙」（薬史学会通信）を発行し、会員相互の情報の流れを密にし、会員拡大にもつとめるなど、新たな活動を展開することに致しました。宜しくお願いいたします。

中国の薬史学短報

中国における医薬の歴史に関する研究は、主として伝統医学研究の一環として行われてきたが、1983年9月22日、中国薬学会薬史学会として独立した研究組織が成立した。

同会の名誉主任委員は薛愚氏で、中国薬学

会の長老であり、1955（昭和30）年12月に、中国科学院訪日学術視察団の一員として来日されている。

中国薬学会は1907または08年、東京水道橋で創立されたという記録がある。しかしその一次資料は未発見で、日中両国の薬史学関係者の間で、その調査が課題となっている。

日本薬史学会総会（金沢）報告

上記総会は昭和60年4月4日（木）、日本薬学会第105年会・薬史部会々場において、吉井千代田常任幹事を議長として開催され、下記事項が承認された。

- (1) 昭和59年度会務・会計報告
- (2) 昭和59年度会計監査報告
- (3) 昭和60年度予算案

(4) 昭和60年度事業計画

- a) 会則変更
- b) 活動強化
機関誌・紙の発行
評議員制の強化
国際交流の推進
- c) 会長人事

会員の移動

議事(4)－a), 会則変更のの概要は次の通り。

	前年度	資格変更		入 会	退 会	
		+	-			
賛助会員	18		1			17
一般会員	181	2		2	9	176
学生会員	2		1	1		2
	201	2	2	3	9	195

現行会則第5条会費の項を改正し、新しく第6条名誉会員の項を設け、現行の第6条以下を第7条以下に繰下げることにした。

第5条

本会の会員および年額会費は次の通りとする。

通常会員 4,000円
学生会員 2,000円
外国会員 5,000円
賛助会員 30,000円
名誉会員 随意

第6条

名誉会員は本会の発展に寄与したもので会長の推せんによって選任し総会の承認を得るものとし、その資格は終身とする。

議事(4)－c), 会長人事については、木村雄四郎会長が病気を理由として辞意を表明されたので、昭和60年12月迄の任期中であるので会長代行をおくこととし、吉井千代田常任幹事を選出した。(山田光男記)(以上)

編集後記

いよいよ学会通信紙の発足です。

題字は前会長木村雄四郎先生より頂きました。先生が身を挺して本学会の活性化に努められている深意を体し、微力ながら頑張るつもりです。次号より早速講座を掲載いたします。(K)

昭和59年度決算

収入の部

	予 算	決 算	増減△
前年繰越	285,357	285,357	0
賛助会費	270,000	340,000	70,000
一般会費	543,000	795,000	252,000
学生会費	3,000	1,500	△ 1,500
投稿料	100,000	220,276	120,276
広告料	40,000	20,000	△ 20,000
雑誌販売	10,000	2,000	△ 8,000
雑	5,000	3,000	△ 2,000
利 子	3,000	671	△ 2,329
	1,259,357	1,667,804	408,447

支出の部

	予 算	決 算	増減△
印刷費	1,180,000	1,051,902	△ 128,098
通信費	60,000	55,760	△ 4,240
事務費	14,357	9,670	△ 4,687
雑	5,000	13,790	8,790
	1,259,357	1,131,122	△ 128,235

繰越残 536,682

昭和60年度予算案

収入の部

	前 年 度	予 算	前 年 比
前年繰越	285,357	536,682	251,325
賛助会費	270,000	510,000	240,000
一般会費	543,000	704,000	161,000
学生会費	3,000	4,000	1,000
投稿料	100,000	100,000	0
広告料	40,000	40,000	0
雑誌販売	10,000	10,000	0
雑	5,000	5,000	0
利 子	3,000	3,000	0
	1,131,122	1,912,682	653,325

支出の部

	前 年 度	予 算	前 年 比
印刷費	1,180,000	1,830,000	650,000
通信資	60,000	60,000	0
事務費	14,357	12,682	△ 1,675
雑	5,000	10,000	5,000
	1,259,357	1,912,682	653,325